



鈴木基夫  
自由クラブ

障がい者の青年期の学びと集いの場に関するニーズ

**問** 日常生活用具給付事業について、厚生労働省から令和6年3月市町村に、適切な種目や基準額となるよう、定期的な見直しに努めるよう指示が出たが、本市の対応を伺う。

**答** 定期的ではないが2年に、人工鼻、発電機及び外部バッテリー等の種目の追加と、点字ディスプレイの給付対象者を拡大する等の見直しを行った。今後は定期的に状況把握を行い、必要に応じて見直しができるよう検討していく。

**問** 当事者のニーズ把握や実勢価格の調査等について伺う。

**答** 当事者のニーズは、要望等があった際に、要件を満たせばその都度認めてきた。実勢価

格は金額の変動を各業者から伺っていないが、他市と同等の金額が設定されているため、直ちに金額の見直しが必要とは考えていない。他市の動向も注視しつつ、検討していきたいと考えている。

**問** 障がいのある方々が就労後、過ごせる学びと集いの場所について考えを伺う。

**答** 現状では、既存の制度の枠組みで対応してもらいたいと考えているが、今後ニーズを鑑み、制度改正が行われる可能性もあるため、国県の動向を注視し、他市町の事例の調査などをを行い、研究をしていきたいと考えている。



大須賀林  
自民党市議団・無所属の会

イネープリングシティについて

**問** 費用対効果に見合った基本計画を伺う。

**答** 横浜市立大学の武部貴則特別教授を中心に多方面・多数の学術的な専門家と定例会議のほか、蒲郡市にもたびたび訪れてもらい、丁寧な支援を受けている。新たなまちづくりの提案や事業の企画を進めており、イネープリングシティ形成を推進できるための予算と考える。

**問** 市民の歩数が少ないという課題は解消できるのか。

**答** 健康施策との連携も必要であるが、イネープリングシティが形成され、人々が幸福を実感できるものや場所が市内に増えることで、市民が歩きたくなるまちづくり施策の推進を

するとともに、歩数の増加に導くことができないのではないかと考えている。

**問** 基本計画は何年かけて行う予定なのか。また成果の見込みはあるのかを伺う。

**答** イネープリングシティ基本計画の計画期間は定めておらず継続的に推進するが、横浜市立大学との共同研究における実証検証事業は、3年を目途に考えている。まちづくり施策はすぐに成果が出るものではなく、今後市民の意見を聞きながら、ウェルビーイングの実現に向けて地域と協働しながら全庁的に推進していきたい。



## 令和6年度一般会計決算などを議決

9月市議会定例会は、9月4日から25日までの22日間の会期で開き、議案25件、意見書案1件を審議しました。その主な内容をお知らせします。

9月定例会

議案

9月定例会

決算審査

特別委員会から

令和6年度一般会計決算など11会計決算は、16人の委員からなる決算審査特別委員会（委員長牧野泰広、副委員長八田寿人）を9月4日に設置し、16日から19日までの4日間にわたり審査しました。

決算審査特別委員会での主な質疑は、次のとおりです。

◎一般会計

歳出前年度比101・1%

一般会計の歳出は、前年度比101・1%で、歳入は同101・2%でした。

一般会計の歳入から歳出を引いた額は、14億1928万円ですが、この中には翌年度に繰り越すべき財源の2億8377万円が含まれています。

これを除いた実質収支額は11億3551万円の黒字です。